

東地区コミュニティだより

東地区コミュニティ推進協議会

編集・発行/東地区青少協・東地区コミュニティ推進協議会 住所/十和田市大字三本木字里ノ沢1-240(東コミュニティセンター内) TEL 0176-24-9000 FAX 24-9003

【報告】東コミュニティセンター(旧:東公民館)の「十和田市指定管理」の認定を目指して!!

将来を見据えた地域づくりを指して地区の発展と活性化を図るため「東コミュニティセンター」(旧:東公民館)を地域住民、つまり私たちの手で自主管理・運営を目的として、十和田市指定管理取得の準備をしているところだ。

協議会の総会でも全会一致で指定管理取得の承認をして頂きましたがその後、二年間コロナ禍の中でもあり感染予防の関係から三役を中心として会議を重ね認定取得の準備を進めて参りました。



その為には十和田市からのNP法人取得の指導もあり、今年度の協議会総会で承認を頂いたうえで、十和田市「指定管理」認定を取得するため、特定非営利法人(NPO)仮称「ひがしの杜(もり)」の立ち上げを申請したいと思っております。

東地区コミュニティ・二十二町内会の皆様方の深いご理解とご協力を切にお願いを申し上げ、指定管理取得における進捗状況の報告とさせていただきます。

(会長) 太田 薫

高齢者見守り活動実施にて

小野 節子

私の向陽台町内会と前谷地町内会、他の町内会よりも先行して、活動しています。前は、独り暮らしの高齢者宅を訪ねると、寒い中、「ワザワザ来てくれてありがとうございます。普段は、誰とも話す事が出来なくてとても寂しいんですよ。安否確認とはほんとうに感謝です。」と話してくれました。町内会長さんも安堵の様子が伺われましたが、今は、コロナ禍の為、電話での対応にしています。



会、東小、東中PTA、青少年健全育成協議会他で構成されていますので、どの方も協力して、東地区が安心安全に過ごせるよう見守り続けていきたいです。

令和三年度 市への要望・回答

東地区コミュニティ推進協議会事務局員 熊谷 羊二

要望一 東二十一番町の水野氏宅の東側市道の拡幅、北側の交差点の拡幅及び稲生川に架かる橋を拡幅し右折レーンを設置してほしい。

市の回答 市道の両側の土地を買収し東側に歩道の設置、橋の拡幅を考えます。二二年度に調査、測量、設計を、その後用地買収を行い、二二年度から工事に入りたい。

要望二 ひがしの一丁目十一番地先の道路を拡幅してほしい。道路は幅四メートルと狭く、車両の交差が厳しい。近年、三沢・十和田線の利用車両が渋滞を避けてこの道路を利用し交通量が増えている。特に冬場は道幅が狭く、児童等の歩行が危険です。

市の回答 この道路は、交通量が減少していること、県道工事が完成したので、今後の状況を見て検討していきたい。

要望三 国道四号バイパスから一本木沢三二六の一の道路との交差部分を拡幅してほしい。この道路は幅が狭く、対向車との交差が困難なため、バイパスに出る車がある時は、この道路に入ろうとする車は交通量の多

協議会設立から四年を 経過し、新たな目標

東地区コミュニティ推進協議会 会長 太田 薫



このコロナの収束は全世界の願いであり、私たちが心から収束を祈り、希望を持ちその暁には今までの上り活発な地域活動を繰り広げていきたいと考えております。

さて、この会を立ち上げてから四年の六月で四年になります。その間、組織を拡大した活動・行事を繰り広げ順調に推移し、東地区の結束を高めて参りました。活動実施も軌道に乗れつつあり、新たな計画も立ててこれからのときに冒頭に申し上げました新型コロナウイルスの発生で、足踏み状態が続いております。

コロナが収束した暁には「東小学校区・二東地区コミュニティセンター」を中心に地域活動の活性化を図り「元氣な東地区」づくりを目指したいと考えております。地域の皆様方の深いご理解とご協力をお願い致します。

創立六十周年を 迎えるにあたって

青森県立十和田工業高等学校 校長 佐藤 努



本校は昭和三十八年に機械科と電気科の二学科各三学級で開校し、これまでに一万三千余名の卒業生を輩出してまいりました。今年十月には創立六十周年記念式典を行うべく準備を進めております。

本校の令和三年度の実績としては、青森県の工業系「高校生ものづくりコンテスト」において、二部門で第一位、一部門で第二位と第三位、残りの一部門で第三位に入賞しました。また、硬式野球部とサッカー部が全国大会県予選でベスト8入り、美術部の生徒が県の高総文祭美術部門で最優秀賞に、卓球部が北奥羽高校卓球大会で団体と個人で優勝しております。



県高総文祭最優秀賞受賞絵画

四月に赴任し、対面したのは気持ちのいい生徒たち、一生懸命な先生方、そして地域の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



五月、前日までの雨にも負けずにグラウンド整備をし、時間を遅らせて運動会を実施。縮小プログラムだったものの躍動感あふれる生徒の動きが素晴らしい。

六月、昨年度中止だった上北地方中体連夏季大会が無観客開催。熱い戦いに手に汗握る。九月、県からコロナウイルス感染症緊急対策パッケージが出され、学校行事や部活動、上北地方中体連新人大会が中止に。十月、合唱コンクールやゆずり葉祭(YOSAKOIソラン)を実施。これまでの鬱憤を晴らすかのような迫力満点の披露。

小学校の現在(いま)

十和田市立東小学校 校長 増尾 知彦



コロナ禍で、学校の様子をご覧いただく機会が減っていることから、二年前からの激変ぶりをお伝えしたいと思います。

まずは、一人一台のタブレット端末の導入です。一年生から六年生まで、自分のタブレットを所有し、ネット検索での調べ学習、カメラ・動画撮影、プログラミング、仲間の考えを比較しながらの思考ツール等、学年によっては毎日何らかの形で活用しています。

次に英語が五・六年生で教科となったことです。英語でのコミュニケーションやゲームを楽しむ活動から、教科として聞く・話す・読む・書くの学習となり、学力テストでも英文の音声で長時間続きます。英語が苦手な私は、子どもたちを心から尊敬しています。

編集後記

コロナ禍の中で、恒例行事の中止が続いていて各イベントの様子が掲載できず残念でしたが二・三面に掲載している地域の将来についての勉強会を三回開催しました。地域のことを、若い人達と一緒に考えることが出来た事は大変意義深いものが有りました。

今後とも、皆様の地域での様々な話題や情報を取りあげ提供して参りたいと思います。ご協力をお願いいたします。

- 編集委員長 沢尾 典子
委員 桜田 量子
細越 俊美
熊谷 羊二
黒田 真之

東小学校の保護者世帯の皆さまにご協力いただいた
アンケート調査結果の重要課題を一部抜粋

アンケート調査にご協力いただいた皆さまありがとうございました。いただきましたご意見等を今後の地域の将来ビジョンにしっかり役立たせていただきます。

■アンケート回収率は70.4%

日常生活の中で不安に感じることベスト3は

- 1位 冬季の除雪のこと
- 2位 生活道路など環境整備
- 3位 災害に関すること

不満度高いベスト3は

- 1位 道路・河川維持管理
- 2位 美化・環境維持
- 3位 防犯・交通安全

地域での活動で大切なことは

発達障害への理解や子どもたちを巻き込んだ活動が必要、他市町村からの転入者も参加しやすいオープンな受け入れなど

子育て・教育について

学童保育の学年の延長、家族以外の大人と子どもの交流の機会、新しい形の子ども会、遊び場(公園)の充実、子どもを産みやすい環境(医療体制)整備など
 ※子育て環境がどちらかという悪い8%、悪い2%、1割は悪いと思っている、改善していこう



安心・安全について

道路環境の整備、ガードレール設置など危険箇所たくさんあり!街灯も少なすぎ、暗すぎとけっこうなご意見多数、巡回バスの充実(スクールバスとしても利用)など

環境について

ペットはかわいいけど、犬のフンの片づけ、公共の場でのペットの扱い方(苦手な人もいます)、ゴミなどを燃やしている、工業高校の松の木の落ち葉の片づけ、側溝にふたがないのでたまると

買い物環境について

期待することベスト1は、大型商業施設の誘致19%、次に飲食できる場所17%、そして、あたたかい接客サービス16%、子どもが集える駄菓子屋が欲しいという意見も多数

高齢者、障がい者の方が困っていること

ダントツの1位は冬季の除雪36%、2位買い物、病院などへの移動手段30%、3位力仕事など暮らしの中で必要なこと16%

障がい児者の就学支援の必要性の意見あり、福祉サービスの受け方を知らない人がいるのでわかりやすいサービス利用案内をしてほしい!障がい者への理解と支援の充実が地域にも学校にも必要



健康への関心度

日頃から健康維持に気をつけている24.9%、どちらかといえば気をつけている54.8%と8割ほどが健康維持に気をつけている

東地区の将来ビジョンづくりに向けて

私たちが暮らしている地区が住みやすく楽しい地域となるような「将来の姿」を考えてみませんか

協力・特定非営利法人「なんぶねっと」
 コーディネーター 四戸泰明氏
 ・上北地域県民局地域連携部
 ・十和田市まちづくり支援課

地域の将来をよくしようとするのは、そこに住む人たちにとって当然のことである。では、「地域をよくするのは行政なのか?」の問いに私たちはどう答えるだろう。答えは「私たち」であり、「私たち」には行政も含まれる。昨年度から将来ビジョンづくりの準備のための勉強会を開催し、今年度は将来ビジョンづくりを語る会を開催、着々と将来ビジョンづくりのベース構築を進めてきた。今回の語る会は参加メンバーを限定し、勉強会等に参加し、今まで準備に関わってきた市民とこの地域に関わる団体やNPO、関係機関の方々20名ほどで構成し、進めてきた。

第1回目の語る会は、令和3年10月13日に東小学校体育館において開催。

課題把握の方法について考える。まずはじめは、昨年度の勉強会においてまとめた行動計画の中で方法として挙げられたアンケート調査について、内容を参加メンバーで確認し、追加事項や修正箇所などを話し合った。今回の調査は東小学校のご協力のもと、小学校へ通う子どものいる世帯を対象とさせていただいた。ご協力いただいた世帯の皆さまには本当に感謝しかないのですが、どうしてもこの将来ビジョンづくりには皆さんの声が必要だったため、設問数も多く、回答するのにご面倒をおかけしたと思います。自分たちの住む地域の将来のためとのご理解とご協力を得て、おかげ様で多くの回答が集まり、調査結果を出すことができた。



第2回目の語る会は、令和4年1月19日に東コミュニティセンターにおいて開催し、十和田市民会議の佐藤やえ氏とHappyChildren towadaの新藤潤一氏、一本木沢ビオトープ協議会の松尾五月氏から日頃の地域での活動から現場での課題や今後について情報提供していただき、その後、参加者が4グループに分かれて、それぞれの考える地域課題について分野ごとに整理して話し合うグループワークを実施した。

第3回目は、コロナウイルス感染拡大の状況により書面会議とし、先に実施したアンケート調査結果をもとに6つの分野ごとに課題を整理し、その解決する策をまとめるワークを行った。



6つの分野は十和田市の総合計画から市民が主体的に取り組む必要がある分野に絞ったもの。アンケート調査の声をしっかり拾い上げ、子どもから高齢の方まで多年代の市民でこの地域をよりよくしていくように、実際に事業や活動で課題解決に向けて取り組んでいる実践者とともに同じテーブル、同じ目線で行政も交えながら今後、将来ビジョンづくりを進めていきます。

(アンケート調査集計結果等の簡略図は次ページに記載。)